

# 事務事業事後評価表

## 《基本情報》

事務事業の名称 【1】	健康増進事業		担当課 【2】	保健予防課						
			評価者(担当者)	島崎 和美						
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	⑤いきいきと暮らせる福祉のまちづくり						重点 施策【4】		
	主要施策(節)	(1)保健医療体制の充実								
	施策区分	(1)健康づくりの推進						<input type="checkbox"/> 該当		
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input type="checkbox"/> 新市建設計画【 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【健康増進法 <input type="checkbox"/> その他の計画【       ]		年度予定	:	金額	千円【 <input type="checkbox"/> 該当なし       ]				
事業区分 【6】	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定事務									
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【       ]		款	4	項	1	目	2	細目	9

## 《事務事業の目的》

事務事業の実施背景 (どのような問題又は ニーズがあるのか) 【8】	生活習慣病の予防は重要な課題であり、若い世代からその予防に取り組むことが必要となる。そのためには、食についての正しい知識や運動の習慣化が効果的であり、実践・継続のためには人と人のつながりを強化し、互いに支えあい、地域の健康課題を考える場など社会環境整備も求められているため。
対象(誰、何に対して) 【9】	市民
意図(どのような状態に したいのか) 【10】	生活習慣病予防のために、食についての正しい知識や運動の習慣化に取り組むための学習の場を提供することで生活習慣病を予防する。また、市民と関係機関・行政が連携を図り、協働で健康づくりの現状・課題・目標・対策について共有し、市民主体の健康づくりに取り組む。

## 《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】    【 H17 年度から】    【 年度～ 年度まで】		
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【       ]		
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【       ]		
事務事業の具体的内容 【14】	①ヘルスアップ教室はカリキュラムに沿って、健康に関する講話や運動実技、調理実習等、年間8回の学習会を開催する。 ②ゆったりストレッチ教室は健康運動指導士を講師として年間10回の教室を開催し、体操の実技を行う。 ③健康体操教室は自きょう術普及会指導員を講師として年間24回の教室を開催し、体操の実技を行う。 ④国保加入者が人間ドックで歯周病・骨粗しょう症健診を受けた場合の経費、その他の事務費の繰り出しを行う。 ⑤校区を単位として市民主体の健康づくり活動を支援する。	⇒	事務事業を構成する細事業 【15】 ①ヘルスアップ教室業務 ②ゆったりストレッチ教室業務 ③健康体操教室業務 ④国保会計への繰出金業務(人間ドックオプション分等) ⑤市民と協働の健康づくり事業

## 《事務事業実施に係るコスト》

		H23年度決算	H24年度決算	H25年度決算	H26年度予算	全体計画	
投入 コスト	事業 費 (千 円)	国庫支出金					
		県支出金	66 %	4,251	4,004	4,833	1,428
		起債	%				
		受益者負担					
		その他					
		一般財源		10,888	11,096	11,953	14,260
	【16】 小 計		15,139	15,100	16,786	15,688	0
	[再掲]臨時・非常勤職員人件費(千円)		18	0	0	0	
	職人 員 件 の 費	職員人工数		0.30	0.43	0.45	0.45
		職員の年間平均給与額(千円)		5,685	5,610	5,610	5,610
【17】 小 計			1,706	2,412	2,525	2,525	
合 計			16,845	17,512	19,311	18,213	

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
①ヘルスアップ教室業務	食や運動等の学習会を開催することで食改の後継者を育成する。	教室開催回数	回	8	8	8	8
②ゆったりストレッチ教室業務	講師によるアロマ・エアロ等を取り入れた実技指導を行う。	教室開催回数	回	10	10	10	10
③健康体操教室業務	講師による自きょう術の実技指導を行う。	教室開催回数	回	24	24	24	
④国保会計への繰入金業務(人間ドックオプション分等)	国保加入者が人間ドックで歯周病・骨粗しょう症健診を受けた場合の経費、その他の事務費の繰り出しを行う。						
⑤市民と協働の健康づくり事業	校区を単位として市民主体の健康づくり活動を支援する。	取組み校区数	校区			1	1

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	
1 食生活改善推進員協議会加入率	食生活改善推進員協議会加入者数/ヘルスアップ教室生徒数	%	100	100	100	100
			87	89	60	
2 ゆったりストレッチ教室、健康体操教室参加率	ゆったりストレッチ教室出席者数/ゆったりストレッチ教室生徒数	%	100	100	100	100
			79	75	75	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。 <input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	各種教室が健康づくりのための栄養の知識習得と運動の習慣をつくる機会となっている。参加者の身体に改善がみられ、教室終了後も何らかの形で運動を継続し、健康づくりに取り組んでいる。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。 <input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり <input type="checkbox"/> 影響なし	
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成	教室参加者を募るための啓発を一層行う。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。 <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分	
効率性 (判定) B	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。 <input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	自主グループとして活動を継続する教室については、他施設の利用を勧める等の検討を行う。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。 <input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。 <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。 <input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。 <input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	生活習慣病予防や健康づくりの大切さを分かり、食の学習や運動をする習慣づくりの機会となり、同じ目的を持った者同士の仲間づくりの場にもなっているため、ニーズをとらえつつ事業を継続する。健康体操教室は、自主グループとして活動を継続されているが、活動場所については、保健センターの業務に支障をきたす状況があるため他施設の利用を勧めるよう検討する。
昨年からの見直し・改善状況【32】	健康体操教室は事業目的を達成したと判断し、市民のニーズをとらえ、産後の母親を対象に育児からのリフレッシュの場として、産後ママビクス教室に変更した。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	これらの活動に参加され、終了後も自主活動にも参加されており、意識も高く是非継続すべき事業である。	評価責任者 村上 隆之
------------------	--	----------------